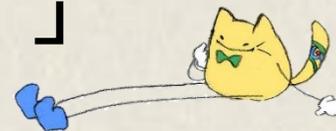


## 教頭×生徒4名 本音でトーク！

### 座談会テーマ「済美平成はこんな学校です！」



場所 四門館  
実施日 2024年2月17日(土)

参加者 (学年は座談会実施時のもの)



Kさん

Sさん

教頭

Yさん

Aさん

3年。自然科学部所属。

5年文系。放送部で部長を務める。

英語科。済美平成に創立時から勤務。

2年。ダンス部所属。

4年。文系予定。茶道部所属。

## ◇入学して驚いたことや、他校との違いを感じたことを教えてください。

Y 入学時は前期生(中学生年代)と後期生(高校生年代)で校舎が分かれていると思っていたのですが、実際は同じ校舎にいて、日常的に出会えることが新鮮でした。今は、自分たちの教室があるフロアに四門館があって、そこに先輩たちがいたりとか。

教頭 なるほど、四門館の出入りで先輩とすれ違うとき、何か話したりしますか？

Y 部活の先輩とかとは、手を振ってくれたり、ちょっと話したりすることがあります。

教頭 そうなのが刺激になるんですね。公立中学校だと高校生と関わることがあまりないと思うんですけど、部活やイベントなどを通して、高校生の先輩達とも仲良くなり、色々な知識を得られるところが、本校ならではの良いところだとですね。

A 僕は入学した当初に、土曜日にも授業があるっていうのを知って、ちょっとこれ負担になりそう、しんどいなっていうのを最初は感じました。でも、実際やってみて、慣れてきたら、むしろこれぐらいじゃないと勉強をしっかり先取りしてやれないなというのを感じました。中学の教科を2年間で修得するために、学習時間を確保してくれているんだと。やっぱり受験に向けてしっかり勉強をさせてくれるんだなというのを有り難く感じる



ようになりました。

S 私が入学して最初に驚いたのは、学校内に自動販売機があって、お昼にパンを買いに行けること。学校で何かを買うという文化が小学校ではあり得ないことだったから、何かちょっと特別感があって、済美平成に來なかつた友達とかに、うち自販機あるよって自慢げに語ったりしていました(笑)。  
あと、うちの学校は先生がすごくフランクだと思いました。前期課程の時は分からないことも多くて、結構聞きに行く回数が多かつたんですけど、どの先生もちゃんと時間をとって教えてくれて。塾に通っていなかった私にはとても有り難いことでした。

## ◇イベントで特に印象に残っていることがありますか？ 新2年生が新1年生を迎える「ようこそ集会」は、 どうでしたか？

Y 私が1年生の時はコロナの影響で、教室に2年生の先輩が来てくれて実施するって感じだったので、人が少ない分むしろ顔も覚えやすかつたし、部活の見学の際も、あの先輩いる、みたいな安心感がありました。2年生では、実行委員会でクイズ係をやることになりました。その時はアリーナでやることになり、経験もないし、とりあえず先輩にどんな感じだったんですか？と聞きました。あと先生にインタビュー



ようこそ集会

しに行ったりして、大きな紙に全体のシナリオを作って提出しなきゃいけない。小学校の時はそんなのがなかったので、初めての経験でした。でも最後は成功に終わったので良かったなと思います。

**教頭** 何かを成し遂げるという体験ができたということですね。学年が多い、ということは、分からないことなどを聞ける先輩方も多いということにつながりますね。

**K** ようこそ集会をしてもらった時は、僕も会場が教室だったんですけど、先輩から、後輩の自分たちにどうすればみんなと仲良くなれるとか、どういうことで仲良くなりやすいかというのを伝えてもらったので、一つの指標にはなりました。迎える側になった2



年生では、僕のグループが、先生たちの名前を覚えられるように、紹介のプロフィールを作りました。僕たちも先生たちの名前を覚えきれていなくて、名前を覚える絶好の機会になりました(笑)。1年生だけじゃなくて、それ以上にもいい影響があるんじゃないかなと思います。

**A** 僕の1年生の時は2020年なので、コロナウイルスが直撃したころですね。だから僕らの学年は分散登校からのスタートでした。ようこそ集会をできる状態じゃなかったです。その次の年の2年生では、教室を上級生が訪問する形でやりました。僕の班では協力して部活動紹介をしました。ロイロノートを使って、部活動名と説明を書き込んでいくっていう感じで、みんなにスライドを見せながら発表しました。班のみんなと一緒に部活動のことを調べて、こんな部活があるんだっていうのを僕たち自身が新たに知れ

たのはすごく大きかったです。

**教頭** 1年生の時にようこそ集会を経験してなくて、いきなり2年生で案内する側に回って、大変でしたね。情報とかは、先輩や先生方から？

**A** 当時の僕は部活はやっていなかったんで、先輩と関わる機会がなくて。だから、同級生と、あとはずっといらっしゃる先生方から情報を教えてもらって、なんとか模索して作っていくという感じでした。新鮮で楽しさがありました。

**S** 私が1年生のときのようこそ集会が、コロナ前の最後にやってもらったようこそ集会でした。本当に入学してすぐやるから、クラスのことも全然分からないまま始まったけど、ゲームをやってみんな盛り上がり、全然顔も知らないようなクラスメイトと仲良くなったきっかけ、初めて団結したきっかけがこの集会だったのかなって思います。2年の時は、コロナが流行るなんて分かってないから準備してたんですけど、急に休校になって、せっかくの準備が全部チャラになってしまって、とても残念でした。



**教頭** 「ようこそ集会」は生徒の発案で生まれたものなんです。1期生として入学した生徒たちが2期生を迎えるにあたってアイデアを出し合い、集会での学校紹介のほか、校内の案内や教室の飾り付けなどを実施しました。昔は入学式の日にしていたんです。名前も生徒たちが決めたんですよ。「迎える」から「ウェルカム」、でも当時は小学校で英語を勉強している時代じゃなかったんで、「ようこそ集会」にしましょうっていう風に決まりました。

この行事は、1年生が2年生になるための一つのステップにもなっていますよね。新1年生のロッカーを新2年生が組み立てるのも、この一環です。在校生が自分の得意分野を生かし、新入生をお迎えすることで「後輩を大切にする」という校風も育まれていると思っています。

◇毎年、卒業生のアンケートでは「一番思い出に残った行事」として「スポーツカーニバル」がダントツの一位です。「スポーツカーニバル」では、全生徒が「応援」「パフォーマンス」「装飾」の各部門に分かれて活動しますね。皆さんも印象に残っていることはありますか？

Y ダンス部の私は、部活の先輩がリーダーを務めるパフォーマンス部門に入って、一緒にやりたいと思っていたんですが、人数の関係で応援部門でした。最初はあまり気乗りしなかったのですが、



応援部門

実際にやっていると、気さくな先輩が多いし、名前を覚えてもらったりするとすごく嬉しくて。だんだん楽しくなっていくうちにうまくいくようになりました。だから何でもマイナスな気持ちでやるんじゃなくて、これも楽し

いなって思えば、成功するのかなって今は思っています。

K 1年生の時はコロナで、僕らは何もしていません。2年生の時に

装飾部門を経験して、3年生の今年は応援で、太鼓を担当することになりました。自然科学部の先輩にやろうよって声をかけてもらって。その時に一番大事なことは何かということを考えてんですけど、5年生の先輩とさらに仲良くなって息を合わせることが一番大事じゃなかったかなって感じました。



装飾部門

教頭 応援は既成の音楽は使わずに、太鼓の音と自分たちの声だけです。ものすごく、太鼓の役割って非常に大きいですね。

A 僕も1年生と2年生の時に部門活動はなかったです。3年生のときは応援で、今年もまた応援になって。僕とKくんは同じグループの応援部門だったので、Kくんたちが太鼓をやってくれているのに合わせて演舞するという感じで応援を行いました。3年生の時も4年の時も先輩がしっかり引っ張ってくれたおかげで成功できたので、やっぱり楽しかったですね。演舞を覚えるのはもちろん、しっかり声を出したり、後輩先輩と息を合わせたりして、このスポーツカーニバルの参加者に応援をするという趣旨を忘れずに、自分の全力を出して取り組むことが大事だなというのを考えながらやりました。

S 私は今回、5年生で後輩たちをひっぱっていく立場になりました。自分としても初めてのパフォーマンス部門で、自分でもできるかわからなかったんですけど、周りに同じように頑張っている5年生がいたから頑張れたなど。ただ、後輩に教えるということの難しさも痛感しましたね。どうやって言ったらまとまるかとか、ど

ういう風に指示を出したらいいのかっていうのはなかなかできる経験じゃないから、これまではずっと先輩についていただけだったスポカだったけど、5年になって引っ張っていくという役割をしてみて、すごく難しいなって思うのと同時に、難しい分、パフォーマンスが揃った時の嬉しさとか楽しさはすごくあったなって思います。



パフォーマンス部門

私は放送部なので、放送の仕事も大変でした。今年からコロナで中止していた入場行進が復活したので、初めて入場行進のアナウンスも担当しましたし、競技の実況とか競技中の音楽とか、スポカで無くてはならない役割みたいなのを任せてもらえて、すごく責任感が養われた経験でした。これからにつながる大事な経験が、この夏いっぱいあったなって感じます。

**教頭** スポーツカーニバルって、1期生が1年の時にスタートしたんですけど、そもそも実施するのか、どんな理念で行うのかについて、生徒たちと話し合いました。せっかくやるなら、楽しいものにししょう、練習は適度にするけど、練習が目的にならないようにしようって話しました。

それで、今、第1別館などがある空間に小さいトラックを作って、テントをたった2つ立てて、みんな競技に出ているから生徒席は無しで(笑)。「競い合うけれども、それが極端にならないようにししょう、みんなが楽しめるようにししょう」という理念をメッセージ化して「スポーツカーニバル」という名称になりました。2クラスしかなかったから1組対2組っていうのもね、ということで、4グループに分ける工夫もしました。競技もアイデアを出し

合って作りました。平成トライアスロンもその一つ。少しずつ中身は変わってきたけれど、最初からずっと続いている競技の一つですね。

とにかく生徒が主体で実施するというので、最初、2年生が中心になってたんですけども、学年が増えていくにつれて、リーダーの学年も上の学年に変わって行って、今のように5年生が仕切るようになりました。

スポーツカーニバルは、生徒同士、いろいろなことでぶつかったりするんですけど、我々教員はなるべく「アドバイスする」みたいな形で。毎年見ていると、どんどん成長して、問題が起こっても生徒達自身で解決するパターンというのができているかなっていう感じがします。今度の生徒会誌『春秋』にもそれぞれのグループの生徒がコメントを寄せていますが、スポカで学んでいることってすごく多いなと思いますね。

## ◇ところで、これまでの話の中に部活動の話が出ていましたが、皆さんの部活動について教えてください。

**Y** 部活はダンス部です。前期生はあまり大会とかがなくて、主に平成祭でのステージと、クリスマスに自分の学年の先生たちに発表する作品を作ります。そのクリスマスの作品は、1年生と2年生が主体となってやるので、最初の曲の編集から始まって、細かい作業をやったので、メンバー同士でぶつかることがあって。ちょっとぎくしゃくした時期もあった



ダンス部

んですけど、最後は、みんな責任感がどんどん湧いてきて、絆はすごく深まったと思います。

部活の中で先輩の話とか、先生の話とか聞く回数が多い人ほどまくなっていくと思います。毎日部活に行くっていうのと、先輩、先生の話ちゃんと素直に聞き入れてみるっていうのが、強くなったり成績を上げたりするには大事なことなのかなって思います。

**K** 僕は自然科学部です。前期課程生の間は基本的に自分の興味があることを実験したり研究したりしていこうという感じでやっている



自然科学部（展示）

るんですが、今年は先輩たちに誘われて、後期課程生のチームに入り、ロボットの研究に参加しました。そのチームが日本学生科学賞の一等を取ったのが一番の思い出です。僕らの目標としては、一等に続いて大臣賞を取ろう

と。一等が20組選ばれるんですけど、残りの20組から大臣賞が選ばれるんです。一等を取るのも結構難しいんですが、5年生のリーダーから「大会前の1週間は頑張れない者はこれからの人生のどの1週間も頑張れない」って言われて、朝から部活に顔を出して頑張りました。

**教頭** 自然科学部は、パソコン部門と数学部門と理科部門と3部門あって、それぞれがみんな楽しそうにやってる感じですね。

**A** 僕は茶道部として週一回活動しています。そんなに活動回数が多くなく、勉強に支障が出ないのがまず良い点だと思います。大会というのは特になくて、外部から先生をお招きしていて、その先

生にお茶をたてて、お客さんのためにお出しするっていう作法を、いくつか種類があるので、一つずつ学んでいくのと、あとはそれに合わせてお花とかお茶碗とか、日本文化も少し教えていただくということをしています。そういう日本文化を学んでいくところで、昔の日本の美意識とか、どういうことを大事にしているのかっていうのが学べるので、すごく心が落ち着いて、いいと思います。

**教頭** 茶道って団体というより、個人で極めるイメージがあるけど、何か先輩から受けた影響とか、あるいは後輩を指導する時にこういうことを注意しているとかはありますか？

**A** 茶道部自体がカチとずっと正座して教えてもらうとかではなく、正座がしんどくなったらちょっと形を崩したり、先生から知識をお話いただきつつも雑談も交えながら学んだりという感じなので、その活動の中



茶道部

で先輩から僕たちが知らなかった情報を教えてもらったり、逆に今、後輩のみんなはこんなことしているんだっていうのも教えてもらったり、部活の場が一つの情報源にもなっていて、すごく楽しいです。

**教頭** たしか4年になってから入ったんですよね？茶道部に入ろうと思ったのはなぜ？

**A** 担任の先生から、高校生になっていろいろ将来のことを考える上で、やっぱり何か部活に入っておいたら、後から何か能力として使えるからいいよというアドバイスをいただいて、そこで「確か

にな」と思って考えてみたら、週1の茶道部だったら勉強に支障なく、かつ心も落ち着いたり礼儀が学べたりして、良さそうだなというので選んで入りました。行ってみたら本当に学べる事が多くて、入って正解だったなとすごくありがたかったです。

**S** 私が入っている放送部は前期と後期に分かれていて、私は前期の時は部活を全く考えていなかったのですが、4年で放送部に入った際、まず縦の繋がりがすごく強くなって思いました。

先輩方がすごくみんな優しく、いい意味でフレンドリーでありながらも、ちゃんと先輩後輩があって、それぞれにやらないといけない仕事がありつつも、年に2回、大きな大会があって、その県予選があるんですけど、その予



放送部（群読発表）

選に出るメンバーを決める校内予選があるんです。その校内予選の時は、先輩後輩関係なく、全員が真剣に本気で取り組んで、予選を勝ち抜いたメンバーが県予選に進むっていう形なんです。全員が本気でやっているからこそ、何かぶち当たれるというか。こっちも全力でできるし、切磋琢磨できる同学年もいるし、頑張っている先輩もいるし、そういう意味ですごくお互いを高めあえる部活なのかなって思います。

顧問の先生の愛ある厳しいご指導が素晴らしいので、先生とも先輩とも後輩とも、どの方面からでも繋がりがあのかなって思います。前期生と後期生が一緒になって活動して参加する「群読コンクール」の練習も、いい経験です。元々ある詩でもいいし、自分たちが作った詩でもいいし、それをみんなで声を合わせて読むっていうのが群読なんですけど、まず群読の詩を前期生たちが作っ

てくれるんですよね。その後、後期生も参加して、みんなで声を合わせて、感想とか、みんなでどういう風に表現したらいいのかっていうのを考えながらやっていくんです。普段、みんなで声を合わせてとか、何か一つになってすることは意外に少ないから、群読も、自分としては年に一回しかないけど、後輩と深く関われるのが楽しくて。独特っていうか、唯一無二の取り組みなのかなって感じています。

## ◇ 上級生や下級生と関わる中でプラスになったことはありますか？

**Y** マラソン大会の時に1,2,3年生、4,5,6年生分かれてやるんですけど、先輩とちょっとタイムを競ったり、練習の時もこのタイム目標と一緒に頑張ろうとかを先輩に言われたり、後輩に言われたりすると、やっぱりやる気にもなるし、楽しかったです。



櫛マラソン

**K** 平成祭（文化祭）で、クラス企画だと学年を超えてということはないんですけど、文化部がやる部活企画では、結構先輩たちとアイデアを出したり、こうすればみんな楽しいんじゃないかとか、こういうこと興味あるんじゃないかなということを考えながらすることで、よりスケールを大きくすることができて、プラスになるんじゃないかなと思います。

僕が所属している自然科学部は、去年までは展示企画だったんで

すけど、今年はロボットを実際に動かして、部員がつくったコースのゴールをめざすという参加型企画をやる予定です。他にも論文形式と、あと数学部門がクイズを作ったりしています。

**A** 僕は縦割りでやる掃除がやっぱり印象的なんです。僕は掃除をしっかりするのが好きで、いつも時間いっぱい頑張っているんですけど。以前、学年混合の縦割り班でトイレ掃除をして、その時に上は6年生の先輩で、下は1年生の子がいて、その方々から行事のこととか色々聞かせてもらっていました。掃除の10分間、ちょっと知識、情報交換をしながらしっかり掃除するっていうのが意外と楽しかったりして、午後の授業のモチベーションになることもあったりしました。

**教頭** 縦割り掃除も、生徒の中からそういう風にしたらいんじゃないかというアイデアが出たんですよ。私の記憶では3期生なんですけど。「縦割り掃除にしたら、私たちが教えられるし」という意見が出て、それをやってみたんですよ。

**S** 私はどちらかというと縦の関係を築くのがちょっと苦手なタイプで、だからこそ、スポカとか部活とか、この学校は人と人の繋がりが強い行事が多いから、ありがたいし、嬉しいなって思います。

## ◇授業や面談、校内のいろいろな学校生活の場面で、印象に残っていることはありますか？

**Y** 講演会が多いことです。ちょっと前にも卒業生講演会がありました。他にも何か外部の方が来て、いつもとは違った授業をしてくれたりとか。話を聞いてると自分もこんな風になりたいとか、

こういう進路もいいなみたいな視野が広がる経験があったので、講演会はとても刺激になります。

**教頭** 卒業生はいろいろな分野で活躍していて、その話は身近な感じもして、刺激になりますよね。私たち教員にとっても、こんなに立派になって、って、とても嬉しい機会になります。



卒業生講演会

**K** 僕は校長面談とか教頭面談が印象深いです。1,2年生で校長面談を、3,4/5,6年生で教頭面談なんですけど、大学のこととか、これからどうしたいかとかっていうのを言葉に出して言ったりすることができる場なので、自分にとっても自覚が更に芽生えて、結構いいシステムじゃないかなと感じます。

**教頭** 中学生で大学の進路の話って、他の学校ではなかなかないかもしれないですね。そういう将来が見えてくるということが6年一貫の良さかも知れませんね。

**C** 目標達成のためにどうすればいいとか、部活とかでどんなことを頑張っていきたいかというような、普段頭の中で考えていることを言葉にしやすいので、目標を作ることができます。

**教頭** 今の1年生の状況は、校長先生が一番広く、あまねく知っているかもしれないですね(笑)。

**A** 僕は場所の話をしませぬ。印象に残る場所としては、やはり「けやき Square」と「けやき Agora」という、この学校特有の2つの広場はずせ



けやき Square

ないと思います。「けやき Square」の方は芝生がある四角い広場。本館4階の3年生フロアなので、3年生が昼休みとか休み時間とかに出て行って、そこで景色を見たりしながら話したり、その中でくつろいだりとか。僕も3年生だったときは昼休みとかよくそこで友達と話していましたね。

「けやき Agora」は、第1別館とその隣にあるアリーナの間にあるウッドデッキ。そこで弁当を食べたりしている子もいます。どっちも憩いの場で、昼休みとかにちょっと移動して気分転換したりできて、特有の場所ではないと感じますね。



けやき Agora

**教頭** けやき Square がある場所には、以前、うちの学校のシンボルツリーのけやきの木が植わってたんですね。そこに、20周年を記念して、みんなが未来に向かって頑張るための「大きな自習室」を作ろうという話になって、移植が難しかったけやきを何とか残したいという気持ちから、広場の名前として残しました。実は、伐採したけやきの木は、今、みんなの教室のネームプレートにもなって、みんなを見守り続けてくれているんですよ。

**S** 今、自習室の話が出ましたが、私が印象深いのは、この学校の「みんなで勉強しよう」という雰囲気です。5年でも、模試の直前に学習合宿がありました。一人だったらちょっと嫌になったり誘惑に負けちゃったりするけど、学年全員で勉強してるから、周りが頑張ってるし自分も頑張ろ



学習合宿 (5年)

うって思えました。そういう機会があるのはすごくありがたいことだなと思っています。考査期間中も放課後、みんな残って勉強してるから、勉強って一人でやるものだけど、周りのみんなと一緒に頑張るみたいな、そういう雰囲気がすごく好きだし、そのおかげで頑張れているっていうのは大きいかなって思います。

**教頭** 学年が進んでいくほど、そういう仲間意識というか、みんなで行こうっていう空気が育っていくのがうちの伝統にもなっていますね。

## ◇本校の大きな特徴の一つに「6ヶ年一貫教育」があります。実際に経験してみてもどの様なメリット、デメリットを感じていますか？

**Y** メリットとしては、やっぱり絆が深まることですかね。部活でも1年生の時より、今の方が同級生とも仲良くなってたなっていうのは感じます。デメリットとしては、中だるみしやすい。高校受験がないからこそ、ちゃんと自己管理してないと、知らない間にちょっとサボったりとかっていうのはあるのかなって思います。

**K** 部活を一回中断せず、ずっと続けられるのがメリットじゃないかなと思います。デメリットは中だるみの心配です。その中だるみ対策の一環として、2年生の最後に高校の入試問題に全員で挑戦するのですが、自分の学力が把握できて、助かりました。

**A** 僕が思うメリットは、受験に向けてずっと同じメンバーでやっていくので、仲間として、だんだん親睦を深めていけることですかね。大学受験に向けて勉強をする上で絆が強いと心強いし、みんな

なに励まされてできるという部分もあると思います。

デメリットは、中だるみもありますし、学年が上がるにつれてやっぱり仲良くなる分、遠慮もなくなってくるので。緊張感が薄れてきて、1年生の頃にはみんなですっかりやれていたことをできなくなるというのがあります。まあ、少しは問題が起こったりもしますが、トータルで考えると、メリットの方が大きいと感じます。

**S** 正直、4年になった時とかは、高校受験してる友達を見て、新しい出会いがあるのかな、と一瞬いいなって思った時期があったんですけど、ここに来てやっぱり6年も共に頑張ってきた仲間達と一緒に大学受験という人生の大きいイベントに挑めるのは、安心できるし、本当に心強いなって思いますね。

デメリットですが、確かに中だるみとか言われますが、意外と気づいたら5年になって、みんなその中だるみもちゃんと乗り越えて、成長できて、今がある気がします。6年間一緒にいるという自信と安心感を得られるから、私はここでよかったなってすごく思います。

## ◇最後に、本校の伝統でもある3年生での「論文活動」はどうでしたか？また、先生達との関係について、印象を話してみてください。

**Y** 私は「論文活動」はこれからのので、テーマなど、少しずつ考えているところです。先生方との関係ですが、今年一番担任の先生と深く関わったのは平成祭ですね。中央委員でクラス企画をしてい



助かったなって思います。

**K** 僕も平成祭で中央委員としてクラス企画をやったんですけど、担任の先生にこういうのでいいですか？どうすればいいですか？と聞くと、「みんなで相談してやってみな」という感じで、やりたいことをやらせてくれたり、こういうのをやったらどうかっていうのも結構聞いて下さる先生たちが多いので、信頼関係を築きやすいのかなと思います。

論文活動の方は、僕は植物の成長促進を研究しました。指導してくれた先生とは何度も話し合いましたし、同級生とは進捗状況を確認しあって、完成させました。

**A** 僕は論文活動で、先生と一対一で、毎日とはいかないまでも、2日に1回とか足繁く通って、ちょっとずつ論文を完成させていったので、すごく先生と関わりが深まりました。その過程で僕、紙を配ってアンケート調査をしたんですが、それまで関わったことのない先生や先輩、後輩と関わりが出来ました。みんなとても協力的で、「面識がなくても話しかけて大丈夫なんだ」ということが分かって、最近は誰とでも話せる



論文活動（3年）

ようになりました。学びの多い体験でしたね。

**教頭** 今のA君は、すごくコミュニケーション力が高く見えるけれど、うちの学校のそういう活動の中で培ってきたことなんですか？

**A** そうですね。小学校の頃はそんなにアクティブなタイプでは無かったのですが、本当に平成校に入ってかなり自分が変わったなと感じています。

**S** 済美平成は、本当に気さくな先生ばかりな印象です。私が積極的に話しに行くのもあるのかもしれませんが、何を聞いても答えてくれるし、些細なことでも意外なほど真剣に相手にしてくださる(笑)。だから、先生達は「遠い存在」じゃない。論文活動でも担当の先生とは本当に長い時間をご一緒させていただきました。学校って、家にいる時間より本当に長くて、家族といる時間よりも先生や友達といる時間が長い。だからこそ、本当に頼れるし、思う存分頼らせてもらっています(笑)。この学校のいいところって、私は一番そこなんじゃないかなって思います。



**教頭** 私個人も、ひとりの教師として「いつも本気で生徒に向き合う」というのを心がけているつもりです。論文活動でも、一人の教員が2人とか3人とかの生徒に本気で向き合って、親しくなっていくわけですね。例えて言えば、生徒にとって担任や副担任などの学年団の先生方が一人目の応援団、部活動の顧問の先生が二人目の応援団だとすると、論文の指導担当の先生は三人目の応援団になれたらと思っています。この論文活動、本当にこの学校の最初

の時から、1期生からずっとやっていて、いろいろ形を変えたり進化させたりはしているんですけど、済美平成の卒業生が将来いろんなところで働いていて、世界のどこかで偶然出会ったとき、どこの学校？同窓生だねみたいな話になって、そういえば論文活動で何やった？担当の先生どうだったみたいな感じで、盛り上げられると楽しいですね。そんな体験が世界のどこかで生まれるように、生徒の皆さんが、世界中、どこでも活躍できる人物になることを期待しています。今日はどうもありがとうございます。

